



守ろう地域の宝! 民俗芸能

～ 美作編 ～



ももっち・うらっち
と一緒に
見ていこう!



はじめに

皆さんは、「^{みんぞくげいのう}民俗芸能」という言葉を聞いたことがありますか。「民俗芸能」とは、地域で生活するなかで、風俗（しきたり）や習慣、信仰（神様や仏様を信じること）をもとにして伝えられてきた祭りや行事などです。獅子舞や神楽、踊りなど、それぞれ伝わってきたものによって、郷土でどのような願いや祈りが行われてきたのかがわかります。

1954年以降、全国各地に残されてきた民俗芸能のなかで、歴史があり、地域の特色をもつものを国の重要無形民俗文化財として守るようになりました。

岡山県内には、国の重要無形民俗文化財として西大寺の会陽（岡山市）や備中神楽（高梁市）など4件、県の重要無形民俗文化財として高田神社獅子舞（津山市）、加茂大祭（吉備中央町）など34件が指定され、それぞれ文化財として大切に守るようにしています。

このガイドブックでは、岡山県の美作地域（現在の津山市、真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町）の無形民俗文化財を取り上げ、紹介します。このガイドブックを見て、ぜひその地を訪れて、祭りや踊りに触れていただければ幸いです。

また、ここで取り上げた無形民俗文化財以外にも、地域の歴史文化を^{ものがた}物語るものがあります。皆さん自身のおすすめの無形民俗文化財を見つけたり、参加したりしてみてはいかがでしょうか。



用語 解説

無形民俗文化財

…文化財を守る法律（文化財保護法）によると、衣食住や仕事、信仰やお祭りなどの年中行事などに関する風俗習慣、民俗芸能や技術、そしてそれに使う衣服や道具、家などで、私たちの生活の移り変わりを理解するために欠くことができないものと説明されています。

ガイドブックを読まれる皆さんへ

このガイドブックでは、美作地域にある、国や県が指定した民俗芸能しょうかいを紹介しています。読んでみて、実際にその場所を訪まとめていただくのも良いですし、皆さんの身近で行われているお祭りなどに参加していただけたらとも思います。

その時には、その民俗芸能がどのような歴史を持っているのか、行われている場所（寺や神社など）の歴史、そして地域の人たちがどうやって受け継ぎ伝えてきているのかといったことを、図書館（室）の本やインターネットなどを使って調べてみてください。

きっと、その民俗芸能を守り、伝えてきた人々の思いや願いも知ることができるのではないのでしょうか。



おかやまの文化財のキッズページでは、岡山県内の文化財を紹介しています。

岡山 文化財 キッズページ

で検索けんさくして下さい。



写真提供: 真庭市教育委員会

用語解説

盆踊り…お盆せんぞに先祖などの霊れいをなぐさめる供養くようの行事として日本各地で、地域ごとに広く伝えられていて、みなさんも地域や学校の様々な場面で踊った経験があると思います。そのような意味で、私たちにとって最も身近な民俗芸能の一つです。

蒜山ひるぜん地域で古くから行われきた素朴そぼくで優雅ゆうがな盆踊りです。中でも、8月15日に福田神ふくだじん社じや(別名: 大宮様)で行われるものが最大で、いつしか「大宮踊」と呼ばれるようになりました。踊場中央に大灯籠をつるし、その下で輪になって踊ります。輪の中に音頭取り数名と、太鼓叩きが位置します。踊り手は、ゆるやかなテンポの音頭にあわせて、その振りには全身の動きに細やかに心を配りながらの大変美しい型となっています。踊りは「あおい」「しっし」「まねき」の3通りあり、踊りの最後の「まねき」の際には、「てんこ」と呼ばれる仮装した踊り手が登場し、観客の目を奪います。



写真提供：真庭市教育委員会



【福田神社】



用語解説

盆…先祖をおまつりする行事。現在の暦では8月15日前後の時期にあたります。

念仏踊り

…盆や仏事の時に、念仏を唱えながら鉦かねや太鼓たいこを打ち鳴らして踊る民俗芸能。



開催日：7月下旬～8月下旬



周辺図



たか た じん じゃ し し まい
高田神社獅子舞 (津山市上横野)



写真提供：津山市教育委員会

713年から行われてきたと伝わり、今からおよそ150年前から特に盛んになりました。高田神社の秋祭りに行われる獅子舞で、獅子株ししかぶと呼ばれる二人の指揮者の指図によって、雄おすと雌めすの獅子が笛ふえと太鼓たいこに合わせて勇ましい舞をくり広げます。一頭につき12人の青年が心を合わせて舞い、これによって悪魔あくまを追い払います。それぞれの獅子の中には、中腰ちゆうこしで獅子頭を使うものや、頭を高く差し上げる際の肩車かたぐるま役などが入ります。これほど大人数で舞う獅子は、他の祭りにはなく、勇ましくて豪華です。

周辺図



開催日：7月最終日曜、10月第2日曜



はちまんじんじゃ ものみじんじゃ
八幡神社及び物見神社の花祭り

(津山市阿波大畑・加茂町物見)



写真提供：津山市教育委員会

八幡神社（阿波）及び物見神社（加茂町物見）の秋祭りに、竹、木、色紙などで各地区が製作した「花」（傘形の一種の山車）を青年達が持って練り歩き、御神幸に色を添えます。御旅所（神様が休む所）への御神幸が終わると勇ましい花の練り合い（行ったり来たりして進むこと）が始められ、参詣者は花の芯や柳の枝を得ようとして一度集まって激しい練り合いとなることから「けんか祭り」とも言われています。氏子の豊かな実りへの感謝と、家内安全を祈る素朴な信仰を表しています。



開催日：【八幡神社】11月3日
【物見神社】10月第4日曜



にい の 新野まつり (津山市新野山形)



写真提供：津山市教育委員会

いつから始まったかは分かりませんが、1770年の記録には祭りのことが書かれています。毎年11月3日に、八幡神社を中心に近隣の5つの神社から7体の神輿が参加し、稲塚野の御神事場で練り合う美作地方最大規模の祭りです。練りには獅子舞、神輿練りなど伝統的な形式を受け継いでいます。練りの後、神輿7体の前で少女達巫女による「浦安の舞」が奉納され、重々しく立派な雰囲気を作り出します。



開催日：11月3日



よし ねん ぶつ おどり
吉念仏踊 (真庭市吉)



写真提供：真庭市教育委員会

8月16日夜に、法福寺本堂の前で行われる先祖を供養（亡くなった方の冥福を祈る）する踊りです。保存会（「講連中」とも）の男性役20人が輪になって跳びます。羽織姿の読み手が言い挙げる供養の唱えごとにあわせ、音頭取りがかけ声をかけ、鉦、鼓、サイハラ役が何度も繰り返して跳びます。サイハラは、長さ1間（およそ180cm）の丸棒の両端に紙を房状に結びつけたもので、かけ声にあわせて2人が打ち合う動作を繰り返します。盆踊りとなる以前の念仏踊り（念仏に節をつけて踊るもの）の様子を伝える貴重な踊りです。



開催日：8月16日



かじ なみ じん じゃ とう にん さい
梶並神社の当人祭 (美作市梶並)



写真提供：美作市教育委員会

今からおよそ400年前頃から始まったとされ、毎年10月第1土曜日に行われる梶並神社の秋祭り行事です。氏子の中から選ばれた「当人様」(とうにんさま) (生き神様)が、一定期間の肉などを食べずに身を清める生活を続け、祭日の「宮上り」(みやあがり)を迎えます。参道にひれ伏した参拝者の背中を衣冠装束(いかんしようぞく)に袴を着用した「当人様」がまたいで通ります。「当人様」にまたいでもらった人は無病息災(むびょうそくさい)・願望成就(がんぼうじょうじゆ)の御利益があるとされています。

開催日：10月第1土曜



周辺図



写真提供：美作市教育委員会

あま びき じん じゃ みや はら し し まい

天曳神社宮原獅子舞

(美作市宮原)



写真提供：美作市教育委員会

天曳神社の秋祭りで、美作市宮原地区から奉納される獅子舞です。神楽や「継獅子」「祇園囃子」など18種類の舞いを伝えており、^{ほうろう}囃子、^{ししまい}奴、^{かぐら}お多福が登場して獅子をあしらっています。

およそ300年前に播磨国赤穂（兵庫県赤穂市）から伝えられたといわれ、獅子舞の盛んな美作東部（岡山県北東部）でも代表的な獅子舞です。

開催日：10月第2土・日曜



用語解説

獅子舞

…正月やお祭りの時に行われる、獅子頭を頭にかぶって舞う民俗芸能です。疫病退治・悪魔払いをするものとして人びとに広く信じられてきました。



ふ せ じんじゃ た う え さい 布施神社のお田植祭

(苫田郡鏡野町富西谷)



写真提供：鏡野町教育委員会

江戸時代の記録によれば「^{かみ たうえ}神田植」とよばれており、毎年5月5日に布施神社の境内で
行われる豊作を祈る祭りです。「^{いの}荒起こし」「^{あらお}しろかき」「くわじろ」「^{しんじ}田植え」の神事が繰
り広げられ、最後に殿様と^{どのだま}従者(福太郎)が登場して、おもしろい^{えん}しぐさを演じます。殿様
と福太郎のかけあいがくり広げられ、見物人は笑いに^{つつ}包まれます。しかし、殿様は決して
笑いません。「殿様が笑うと、その年は不作になる」と言われているからです。



写真提供：鏡野町教育委員会



開催日：5月5日



よこ ぜん か ぶ き

横仙歌舞伎

(勝田郡奈義町豊沢・中島東)



写真提供：奈義町教育委員会

な ぎ さん よこ ぜん
 奈義山の辺りは古くから横仙地方とよばれ、江戸時代末期（今から約200年前）から盛んに農村の楽しみとして地下芝居（地元の人々が行った素人芝居）が演じられてきました。兵庫県の播州歌舞伎などを地方の人々がまねてはじめたとされています。そして、源義経伝説を題材とした「義経千本桜」など多くの芝居が上演されました。地元の振付師の指導のもと、囃子、義太夫、役者も地元の保存会で担当し、芸を磨くとともに、県内外への出張公演や、こども歌舞伎教室などの後継者の育成にも積極的に取り組んでいます。



写真提供：奈義町教育委員会



開催日：【松神社】春
 【奈義町文化センター】11月下旬

たんじょうじ にじゅうご ぼ さつ ねり く よう

誕生寺廿五菩薩練供養

(久米郡久米南町里方)



写真提供：スタジオトリトン

毎年4月の第3日曜日に行われる浄土宗を開いた法然上人（1133～1212）の父漆間時国と母秦氏君を供養する伝統行事です。1700年に再興したという寺の記録があることから、それ以前にも行われていた祭りと考えられます。

誕生寺本堂を“極楽浄土（仏のいる世界）”に、門前300mに位置する娑婆堂を“現世（この世）”にたとえて、二十五菩薩と天童（お稚児）を従えた法然上人の両親の像を極楽浄土へお迎えするという厳粛な儀式です。



開催日：4月第3日曜



おどり
バンバ踊 (久米郡久米南町仏教寺)



写真提供：久米南町教育委員会

日でりの時に^{ぶつきょう じけいだい}佛教寺境内の^{りゅうおうどう}龍王堂に^{あまご}雨乞いの祈願をし、^{いたく}慈悲みの雨が降ったことに^{かんじや}感謝する踊りです。1636年の干ばつの時、当時の津山藩の^{とのさま}殿様 ^{もりながつぐ}森長継の時から始まったとされています。踊りは、佛教寺周辺の^{だんしんと}檀信徒の男性によって行われ、踊り手と太鼓打ちは、ともに女装してゆったりとした踊りを繰り返します。そして、踊りの合い間には^{いさ}勇ましいな^{ぼうじゆつ}棒術が披露されます。

周辺図



開催日が不定のため
佛教寺にお問い合わせください。



さかいじん じゃ

はちまん じんじゃ

し し まい

境神社及び八幡神社の獅子舞

(久米郡美咲町境、美咲町大埴和西)

県指定
重葺無形民俗
文化財



[境神社]

写真提供：美咲町教育委員会

1685年に八幡神社で獅子舞が奉納（^{ほうのう}神や仏にさしあげる）されたことをきっかけに、両神社の秋祭に、豊かな実りや病気などせずに過ごすことなどを祈（^{いの}）って奉納される獅子舞です。境神社の獅子は雌（^{めす}）、八幡神社のものが雄（^{おす}）となっています。境神社の雌は6種類の舞いを優雅に舞い、八幡神社の雄は5種類の舞をダイナミックに舞います。獅子舞の警護役として、「宮棒（^{みやぼう}）」と呼ばれる竹内流の棒術がつき、前座として披露されます。

周辺図



開催日：境 神社 10月第2月曜
八幡神社 10月第2日曜



[境神社]



[八幡神社]

写真提供：美咲町教育委員会

境神社周辺図



八幡神社周辺図



ごほうさい 美作の護法祭

せいすいじ ごほうさい ふたがみさん ごほうさい
清水寺護法祭・二上山護法祭

(久米郡美咲町両崎・久米南町上柵)

県指定
重要無形民俗
文化財



【清水寺】

写真提供：久米南町教育委員会



【二上山】

写真提供：美咲町教育委員会

せいすいじ 清水寺（毎年8月15日深夜）、りょうざんじ 二上山両山寺（毎年8月14日深夜）に行われます。両山寺の記録によれば、1275年に始まったとされています。いずれの祭りも、7日間にわたって身を清めたゴーサマ（護法実）に護法ぜんしん 善神（仏などを守る神）が乗りうつると、鳥が飛ぶように両手を広げて境内を飛び回り、豊かな収穫などを祈ります。いずれの祭りも、山伏（山に入って修行する人）の行事としての古い形をよく伝えていて、きちよう 貴重です。

周辺図



開催日：【清水寺】 8月15日
【二上山】 8月14日





みまさかちほう ぶたい
美作地方に残る舞台について

奈義町の横仙歌舞伎などで芝居がさかんだった美作東部（岡山県北東部）には、人々が地下芝居（地元の人々が演じる素人の芝居）を舞うための舞台が建てられ、現在も各地に残っています。

国指定、県指定の文化財になっている舞台では、今も地域の人々の地下芝居が演じられています。松前神社や田熊の舞台は、廻り舞台（舞台の中央を回転させて、場面を変える仕組）の仕掛けも残っており、当時の人々の地下芝居にける情熱を感じることができます。

	名 称	所 在 地	指 定
1	田熊の舞台	津山市田熊	国
2	松神神社歌舞伎舞台	勝田郡奈義町中島東	県
3	八幡神社の歌舞伎舞台	久米郡美咲町大坪和西	県



田熊の舞台



松神神社歌舞伎舞台

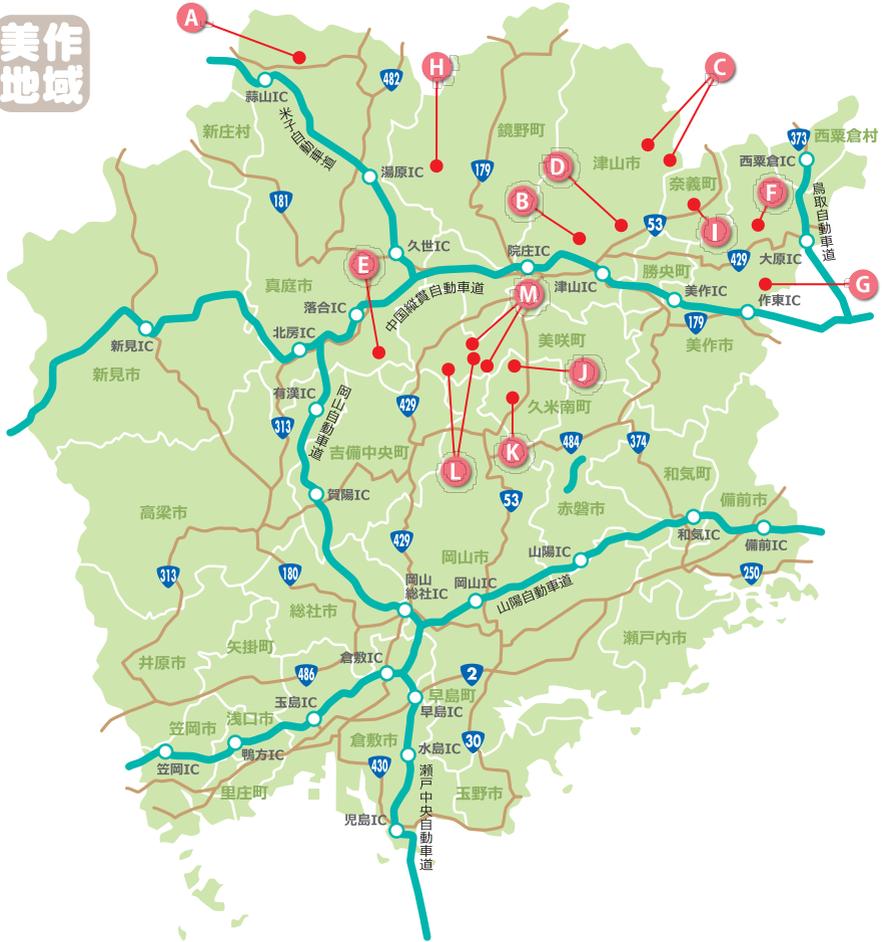


八幡神社の歌舞伎舞台



所在マップ

美作地域



- | | | | | |
|----------------------------------|-----------------------------|---------------------------------------|--------------------------------|-----------------------|
| A 大宮踊
真庭市蒜山地域 | B 高田神社獅子舞
津山市上横野 | C 八幡神社・物見神社花祭り
津山市阿波及び加茂町物見 | D 新野まつり
津山市新野 | E 吉念仏踊
真庭市吉 |
| F 棍並神社の当人祭
美作市棍並 | G 天曳神社宮原獅子舞
美作市宮原 | H 布施神社のお田植祭
苫田郡鏡野町富西谷 | I 横仙歌舞伎
勝田郡奈義町滝本 | |
| J 誕生寺廿五菩薩練供養
久米郡久米南町里方 | K バンパ踊
久米郡久米南町仏教寺 | L 境神社・八幡神社の獅子舞
久米郡美咲町境、大塚和西 | M 美作の護法祭
久米郡美咲町・久米南町 | |

- 発行日 平成31年 3月29日
- 発行 岡山県教育委員会
- 編集 岡山県教育庁文化財課
〒700-8570 岡山県岡山市北区内山下2-4-6 電話086-226-7601(直通)
- 協力 津山市教育委員会、真庭市教育委員会、美作市教育委員会、鏡野町教育委員会、奈義町教育委員会、久米南町教育委員会、美咲町教育委員会